

開催中の企画展

塔

令和4年3月18日(金)～6月12日(日)

台東区には様々な塔が建てられてきました。天慶5年(942)に建てられた浅草寺五重塔(昭和48年(1973)再建)、幸田露伴の著書で有名な谷中天王寺五重塔、明治・大正期の凌雲閣など、すでになくなってしまっているものも多いですが、いずれも地域の象徴として親しまれ、多くの作品に描かれています。本企画展では、中央図書館が所蔵している浮世絵等を用いて、台東区の塔を紹介します。



▲金龍山浅草寺之図(部分)



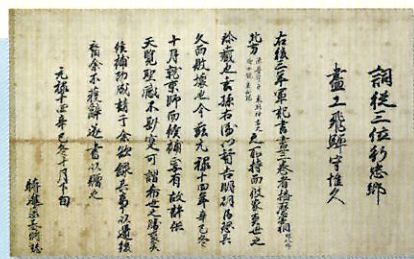
▲東京名所之内 浅草公園凌雲閣

台東区の古代・中世

6月17日(金)～9月11日(日)

今まであまり語られることのなかった台東区の古代・中世について、おもに江戸時代の資料からひもときます。※本企画展は、昨年12月から開催を予定していたものです。

■ギャラリー・トーク、スライド・トーク、トーク・イベント開催



▲後三年合戦絵巻 下巻巻末

台東区の寺(仮)

9月16日(金)～12月11日(日)

台東区には数多くの寺社が存在しています。浅草寺を中心に発展してきた浅草。多くの子院を有する寛永寺の建つ上野。神田から転移してきた寺院により寺町が形成された谷中。そんな台東区の寺社を中央図書館で所蔵している資料を用いて紹介します。

■ギャラリー・トーク、トーク・イベント開催



▲東都名所上野東叡山全図

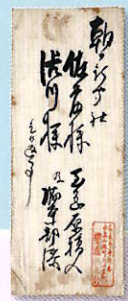
日記が語る台東区9

饗庭篁村と馬琴日記

12月16日(金)～令和5年3月12日(日)

ゆかりの文学者・饗庭篁村の作品をとりあげます。また昨年とは違った視点から、戯作者・曲亭馬琴(1767-1848)の日記をとりあげます。

■ギャラリー・トーク、スライド・トーク、トーク・イベント開催



▲饗庭篁村書簡(朝日新聞社宛封筒)

台東区の道(仮)

令和5年3月17日(金)～6月11日(日)

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

〒111-8621
東京都台東区西浅草3-25-16
TEL. 03-5246-5911
<https://www.city.taito.lg.jp/library/index.html>

- 【開館時間】
月～土曜日 午前9時～午後8時
日曜・祝日 午前9時～午後5時
- 【アクセス】
■つくばエクスプレス「浅草」駅
A2出口から徒歩8分
■地下鉄日比谷線「入谷」駅 徒歩8分
■北めぐりん・南めぐりん
「生涯学習センター北」徒歩3分
「生涯学習センター南」徒歩3分
■都バス「入谷二丁目」停留所 徒歩3分



郷土・資料調査室報

2022 令和4年3月 第12号

郷土・資料調査室の貴重資料を紹介するコーナー
書庫を繙く



▲当世商人気質 明治23年(1890)刊(再版)



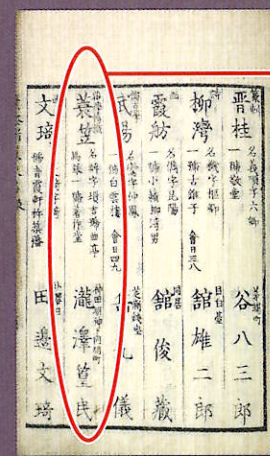
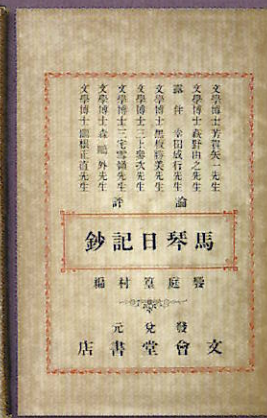
▲絵はがき(帝都大洪水) 明治四十三年八月十二日 向島ドテ下惨状



▲むら竹 第1集 明治22年刊



▲馬琴日記鈔 明治44年刊



▲江戸現在広益諸家人名録 天保7年(1836)秋刊



馬琴の号「滝沢篁民」が記される。

今年、台東区ゆかりの文学者の一人、饗庭篁村(1855-1922)の没後100年にあたります。安政2年(1855)下谷龍泉寺町(現、竜泉3-13付近)に生まれた篁村は、明治7年(1874)、読売新聞社に入り編集に従事するかわら小説・劇評を執筆しました。出世作は同19年発表『当世商人気質』で、坪内逍遙の代表作『当世書生気質』をもじったものです。同じ年、篁村は根岸御隠殿近くの金杉村164番地(現、荒川区東日暮里5-15付近)に移り住み、同じく根岸在住の森田思軒や幸堂得知、また谷中在住の幸田露伴らと結んだ根岸党(根岸派)の中心人物でした。

根岸時代の代表作は、作品集『むら竹』全20巻にまとめられています。明治時代前半に新聞に発表した小説や随筆、翻訳などいくつかの書き下ろし作品を加えたもので、明治22年～23年(1889～1890)にかけて発行されました。第1集所収の「三筋町の通人」「人の噂」など、台東区を舞台にした作品も多く発表されています。

明治28年頃、篁村は向島小梅町107番地(現、墨田区向島3-10付近)に転居し、同43年8月の大洪水に遭遇しますが、大事な書物はいち早く別の場所に運び無事だったとのこと。当時の

『朝日新聞』には、饗庭篁村を見舞うという社命を帯びた記者が、逆に饗庭篁村が雇った船で送り届けてもらう様子が記されています。

篁村は江戸戯作に傾倒し、特に曲亭馬琴を高く評価していました。「篁村」の号は、「竹の屋(舎)」と同じように、命の恩人の姓「竹村」から付けたといわれていますが、馬琴の号「篁民」からも影響を受けた可能性があります。篁村は馬琴の遺族から『南総里見八犬伝』原稿や日記・書簡を入手し、明治44年には『馬琴日記鈔』として刊行しました。本書は、「馬琴日記」を当時の学者が解説・批評するというスタイルで、評者には、幸田露伴・萩野由之・黒板勝美など当代一流の文学者・歴史学者が名を連ねています。同じ根岸党のメンバーである露伴は、版元と馬琴の諍いを記した日記文に対し、「商人は利益だけを見て人を見ない。作者を狩猟用の鷹や犬に見ている」と手厳しく評し、現代の私たちから見ても興味深い内容です。

饗庭篁村没後100年を記念して、本年12月16日(金)からは、企画展「日記が語る台東区9 饗庭篁村と馬琴日記」を開催する予定です。江戸文芸の影響を受けた明治文学の様相を、馬琴日記や篁村の作品を通して見ていきます。

郷土・資料調査室紹介

台東区立図書館デジタルアーカイブ

貴重資料のデータベースが「台東区立図書館デジタルアーカイブ」に名称を変え、新しくなりました。

台東区立図書館デジタルアーカイブでは、高画質・高精細な画像で資料を見ることができます。また、資料の検索・閲覧がより行いやすくなりましたので、ぜひご利用ください。

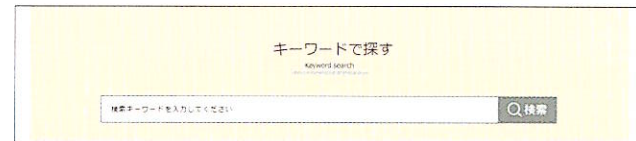
■ 公開している資料

台東区立図書館で所蔵している和本、浮世絵、地図、絵はがき、写真等を公開しています。

■ サイトTOP



画像をクリックすると画像の書誌情報を表示します。
ヘルプをクリックすると使い方説明の画面を表示します。



キーワードを入力して検索ボタンをクリックすると検索結果を表示します。



アイコンをクリックするとクリックしたジャンルの資料一覧を表示します。

■ 画像データのダウンロード



この表示のある資料は画像データをダウンロードすることができます。

表示のない資料、より高精細な画像の利用をご希望の場合は申請が必要です。

■ 利用申請をするには

ご利用の申請は、台東区立図書館ホームページ (<https://www.city.taito.lg.jp/library/index.html>) から電子申請でお申込みいただくか、「郷土資料特別貸出等申請書」に企画書を添えて中央図書館2F郷土コーナーへ持参または郵送でお申込みください。

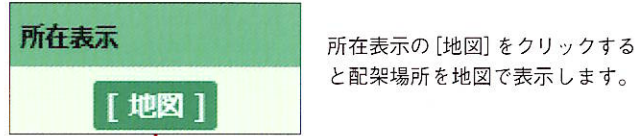
■ 台東区立図書館デジタルアーカイブを見るには

図書館ホームページのTOP画面にあるバナーをクリックするとご覧いただくことができます。

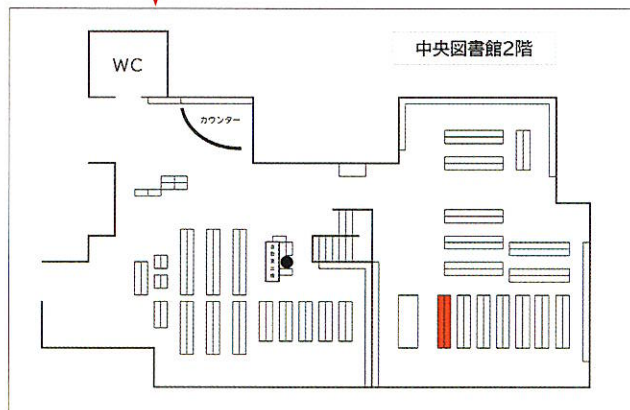
台東区立図書館 デジタルアーカイブ
Taito City Library - Digital Archive

蔵書目録検索システム (OPAC)

蔵書目録検索システム (OPAC) も新しくなりました。資料のある場所が地図で表示されるため、お探しの本を見つけやすくなります。



所在表示の[地図]をクリックすると配架場所を地図で表示します。



赤く表示されている場所にお探しの資料があります。

令和3年度の企画展

一枚の景色2 絵はがきでたどる明治・大正・昭和

3月19日(金)～6月13日(日)

絵はがきが民間で初めて発行されたのは明治33年(1900)です。明治から大正・昭和にかけて、出来事を目で見て知る報道写真としての役割を担っていた絵はがきは、当時の情景を知る最良の情報媒体と言えます。

本企画展では、中央図書館で所蔵している明治・大正・昭和の絵はがき101枚を用いて、魅力あふれる絵はがきの世界を紹介しました。

関連企画

- ◆ 博覧会の記念スタンプ 館所蔵の絵はがきから上野公園で行われた博覧会の記念スタンプを復刻。
- ◆ 一筆箋・封筒 絵はがきに押された記念スタンプを使って一筆箋と封筒を作成。
- ◆ ポップアップカード 館所蔵の絵はがきを参考にポップアップカードを作成。

関連イベント ◆ 図書館員によるギャラリー・トーク 6月6日(日)



▲国際劇場



▲記念スタンプ

台東区の大名屋敷と大名庭園

6月18日(金)～9月12日(日)



▲蓬萊園 上

江戸時代の台東区は、町人地、寺社地に加えて武家地の割合も大きく、大名屋敷も数多く存在していました。しかし、明治維新後、主をなくした大名屋敷は、住宅地等へ変化し、関東大震災や戦災により、わずかながらあった面影も今ではほとんどわからなくなっています。

本企画展では、江戸時代の武士にまつわる資料を展示し、特に浅草橋にあった平戸藩上屋敷の名園「蓬萊園」など、かつて区内にあった大名屋敷や大名庭園を紹介しました。

関連イベント

- ◆ 専門員によるギャラリー・トーク 6月27日(日)、8月8日(日)
- ◆ 専門員によるスライド・トーク 7月11日(日)

絵本江戸土産 ～広重が描いた台東区～

9月17日(金)～12月12日(日)

『絵本江戸土産』は江戸時代、歌川広重(初代)によって嘉永3年(1850)から出版された江戸名所のガイドブックです。初編から七編までを初代広重が描いており、江戸各地の名所を細かく記載しています。

本企画展では、台東区立中央図書館で所蔵している資料の中から『絵本江戸土産』を中心に展示し、浮世絵や和紙と比較しながらそこに描かれた台東区の姿と変遷を紹介しました。

関連企画

- ◆ マスクケース 館所蔵の歌川広重の作品を使ってマスクケースを作成。
- ◆ クロスワードパズル 江戸時代に関連したパズルを作成。
- ◆ 和綴じ本 和綴じ本の作り方を紹介。

関連イベント ◆ 図書館員によるギャラリー・トーク 10月10日(日)、12月5日(日)



▲絵本江戸土産 五編 (其三 清水堂花見)

日記が語る台東区8 馬琴日記

12月17日(金)～令和4年3月13日(日)

江戸時代の戯作者・曲亭馬琴の日記は、文政10年(1827)からおおよそ20年間の長期にわたって記されました。その中から台東区に関連する部分を抜き出して紹介しました。

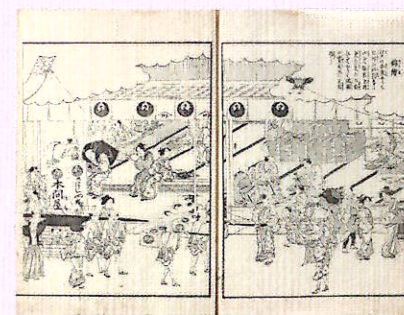
馬琴の息子・宗伯の勤務先である松前藩上屋敷がある小島、馬琴著作の挿絵を手掛けた絵師・柳川重信の住んだ根岸、札差との交流の舞台となった蔵前、また馬琴の代表作『南総里見八犬伝』に登場するかつての台東区の地域にも注目しました。

関連イベント

- ◆ 専門員によるスライド・トーク 1月30日(日)
- ◆ 専門員によるギャラリー・トーク 2月20日(日)

特別企画

- ◆ 根岸図書館スライド・トーク 3月5日(土)



▲江戸名所図会 巻1